

# 直接経口抗凝固薬使用中に発症した心原性脳塞栓症の特徴を明らかにするための研究

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

## 研究の目的と方法

心房細動を原因とする脳梗塞すなわち心原性脳塞栓症は、非常に重篤な脳梗塞となる可能性が非常に高く、一度でも起こすと寝たきりになってしまう可能性が高い病気です。その発症を予防するために抗凝固療法が使用されています。しかし、抗凝固療法による脳梗塞の予防効果は約7割とされており、完全に抑制できるわけではありません。近年脳梗塞の原因となる血栓がしやすい心臓内の場所（左心耳）をカテーテルでふさいでしまうという治療が認可されました。この治療は脳梗塞の発症を抑制する効果が期待されていますが、当然手術による合併症の危険性もあり、適応症例は限られています。

心房細動に対して抗凝固療法を行っているにもかかわらず脳梗塞を発症してしまう方は、今までの治療法では再発を十分抑制することが困難だと考えられます。左心耳閉鎖術などの新たな治療法を検討するためにも、まずはどのような方が抗凝固療法を行っていても脳梗塞を起こしやすいかについて、明らかにする必要があります。

この研究は、抗凝固療法を行っているにもかかわらず脳梗塞を起こす方の特徴を明らかにすることを目的としています。

当院入院時の診療記録を収集し、どのような特徴を有する方が脳梗塞を起こしやすいかを比較します。診療を通じて得られた情報を使用しますので、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

## 研究の対象となる方

2012年8月～2024年3月に当院脳神経内科に入院し、直接抗凝固療法を内服していた方

## 使用する試料・情報

年齢、性別、基礎疾患の有無、発症から治療開始までの期間、手術の有無など

使用開始予定日：2024年10月29日

## 研究予定期間

2024年10月29日～2025年12月31日

## 個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

〔研究の情報管理責任者〕 脳神経内科 永沼雅基

〔当院の個人情報管理責任者〕 院長 中尾浩一

## 研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停

止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

<b>問い合わせ先</b>	済生会熊本病院 脳神経内科 永沼雅基 住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)
---------------	---